

地方独立行政法人神奈川県立病院機構 平成28年度年度計画

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 質の高い医療の提供

(1) 人材育成機能の充実

ア 医療人材の確保

(ア) 医師

連携協力のある大学医学部の医局ローテーションを医師確保の基礎としつつ、公募や医師の人的ネットワークの活用のほか、任期付医師の処遇の見直しを行い、優秀な人材を確保する。

(イ) 看護師

県立看護専門学校や保健福祉大学と連携して学生向け就職説明会を実施するとともに、民間企業主催の合同就職説明会にも積極的に参加する。

(ウ) 事務職員、診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師等

- ・職種毎の実態に合わせて、効果的な募集案内と採用試験内容の見直しや試験実施時期の適切な設定を行う。
- ・大学教育の6年制への移行に伴い、人材確保が困難となっている薬剤師について、大学訪問や病院見学会、就職説明会などにより確保対策を強化していく。

イ 医療人材の育成

(ア) 医師

医師に係る系統的な教育制度を検討するとともに、平成29年度から始まる新たな専門医制度において、後期臨床研修医を積極的に受け入れるため、魅力的な教育・研修体制の検討を行う。

(イ) 看護師

神奈川県内の看護専門学校等との連携を深め、看護学生の実習受け入れ拡大を図る。

(ウ) 事務職員、薬剤師

平成27年度に設置した事務職員及び薬剤師の人材育成に係る検討会の中で議論を進め、平成28年度中に求められる職員像の明確化や育成の方法を整備していく。

(エ) 高度医療セクレタリー<sup>1</sup>

こども医療センターでのモデル事業を推進し、各病院の研修体制を整備するなど、高度医療セクレタリーの導入に向けた環境の整備を行う。

(オ) 医学・工学領域

横浜国立大学と株式会社東芝と連携した共同研究講座を実施し、重粒子線治療に関連した医学・工学領域の人材育成を図る。

## (カ) 大学との連携

横浜市立大学などとの間で人材育成及び教育・試験研究を推進する。こども医療センター及びがんセンターは、事業の着実な実施と内容の充実に努める。

## (キ) 情報発信

人材育成に係る取組内容の成果をホームページ等で情報発信し、県内外の人材育成の活性化に資する。

## (2) 臨床研究の推進

### ア 臨床研究支援

#### (ア) 全体計画

- ・平成27年9月に発足した「みらい臨床研究支援センター」を中心に、神奈川県立病院機構及び神奈川県における臨床研究体制を整備する。
- ・潜在能力を引き出し活性化するための効果的な臨床研究推進体制を研究し、医師主導治験・臨床研究を自ら企画し実施するための基盤を整備する。
- ・最先端医療・医療技術、産業、海外ネットワーク等と有機的に連携し、関連する治験・臨床研究の企画・運営を積極的に行うことによって、神奈川県「ヘルスケア・ニューフロンティア事業」に積極的に協力する。
- ・医師主導治験・臨床研究を計画する医師、研究者ならびに臨床研究の実施を支援する人材の教育訓練体制を整備し、トレーニングを実施する。外部の研究機関や企業、海外関係機関とも連携し、産官学の人材交流の推進を図り、国際的に通用する人材育成環境を整備する。
- ・効率的かつ高水準の審査体制を実現するため、各病院においてそれぞれ実施している倫理委員会等について施設横断的に体制を強化する。
- ・こうした取組みを通じて、県民に提供することのできる医療水準の向上を図る。

#### (イ) 個別計画

##### a こども医療センター

- ・小児治験ネットワークなどを通じた医療機関との連携により、小児がん医薬品や希少疾病用医薬品などの他の医療機関では対応が困難な治験を実施し、小児用の医薬品、医療機器及び再生医療等製品の早期開発に向けた取組みを推進する。
- ・ゲノム科学や最新の遺伝医学を臨床の現場に還元及び応用することで、希少疾患も含めた遺伝性疾患について、正確な診断に基づいた診療を推進する。

##### b 精神医療センター

反復性経頭蓋磁気刺激法 ( r T M S ) や鍼灸の精神科医療への応用、物質依存症に対する集団治療プログラムなどの研究・開発に取り組む。

### c がんセンター

- ・がんの超早期診断や副作用の少ない個別化医療、難治性がんの診断・治療法の確立に向け、遺伝子解析を中心とする臨床研究を推進する。
- ・臨床研究所にRPPA（逆相タンパク質アレイ）コアラボラトリーを設置して、患者検体の本格的な解析を実施し、がんの治療薬や診断薬の開発に寄与する。
- ・腫瘍組織センターは、ISO15189の取得をめざす臨床検査部門との一体化を進めるとともに、倫理、法律及び情報面でも国際標準に到達した質の高い試料保存体制を構築する。
- ・がんワクチン、抗体製剤の実用化に向けて、臨床研究や医師主導治験の拡大を図る。

### d 循環器呼吸器病センター

間質性肺炎や肺がん、循環器疾患に関する診療の取組みや実績を積極的に外部に発信し、新たな治療法や抗がん剤等の開発に向けた治験への参加拡大を図る。

## イ 未病の取組み

神奈川県のみならず、未病への取組みに協力するため、医学的な見地から未病に関する様々な具体的な課題を整理したうえで臨床研究を企画立案し、検討内容の報告を取りまとめ、新しい医療のあり方や未病産業など、効果的な政策提言を行う。

#### [目標値] 治験受託件数

病院名	平成26年度実績値	平成28年度目標値
足柄上病院	11件	9件
こども医療センター	30件	32件
精神医療センター	6件	4件
がんセンター	77件	80件
循環器呼吸器病センター	57件	55件
計	181件	180件

#### 治験受託金額

病院名	平成26年度実績値	平成28年度目標値
足柄上病院	78万円	50万円
こども医療センター	4,465万円	4,500万円
精神医療センター	274万円	50万円
がんセンター	2億3,724万円	2億6,000万円
循環器呼吸器病センター	9,377万円	1億1,800万円
計	3億7,918万円	4億2,400万円

## 2 医療機器等の計画的な整備の推進

高度・専門医療の提供や医学の進歩に合わせた医療を実現するため、採算性や現有医療機器の稼働状況を検証し、効果的な医療機器の導入を進めるとともに、施設の整備・改修を行う。

## 3 医療機関等との機能分化・連携強化の推進

### (1) 全体計画

地域医療機関等との連携を強化するため、地域包括ケアや在宅医療ケア及び啓発活動等の取り組みを推進する。

### (2) 個別計画

#### ア 足柄上病院

- ・在宅療養を支える関係機関との連携を図るため、在宅診療向けの情報システムを使い、市町や足柄上医師会、かかりつけ医及び訪問看護ステーション等と診療情報の共有を進める。
- ・在宅後方支援病院として、退院後、早期にかかりつけ医と一緒に訪問診療を行い、在宅療養への円滑な移行を支援する。
- ・在宅療養に向けた医療やリハビリテーションを行う病棟の準備、開設に取り組む。

#### イ こども医療センター

- ・診療所との連携を強化するために診療所で扱うことの多い疾患に関する勉強会を開催するほか、医療機関訪問を通じ、意見交換等を行う。
- ・訪問看護ステーションの看護師に対し、退院が近い患者へのケアの手法を指導するほか、退院初期訪問時に同行する「退院後訪問看護」を緩和ケアの患者も対象として実施する。
- ・在宅医療ケアに係る相談対応、県内全小児対応訪問看護ステーションを対象とした医療ケア実技研修会の開催等、在宅医療の支援に取り組む。
- ・地域連携システムを活用し、オンラインによる紹介状の收受や診療予約の受付などを実施するほか、地域医療機関との診療情報の共有化を図り、在宅医療への移行、成人への移行期医療の対応を積極的に推進していく。

#### ウ 精神医療センター

多職種チームの体制を整備し、地域の要請に対するアウトリーチや退院前訪問による療養生活指導など、患者の社会復帰に向けた取り組みを推進する。また、地域との連携を強化し、患者増を図るため、地域連携室を設置するとともに、専門病棟見学会や医療機関訪問などを実施する。

#### エ がんセンター

- ・緩和ケアセンターにおいて、地域の医療従事者向けの研修会や医療機関との協働カンファレンスを積極的に開催し、地域の緩和ケア提供体制の充実に努める。

・院内における逆紹介の仕組み作りに取り組むとともに、地域医療機関との連携を強化し、逆紹介件数の増加を図る。

## オ 循環器呼吸器病センター

・地域との連携を強化するため、在宅療養を支援する医療機関や訪問看護ステーション等との事例検討会を積極的に開催するとともに、横浜市が進める在宅医療連携拠点事業に協力し、地域における在宅療養の支援に取り組む。

・院内及び地域医療機関の看護師等を対象とする「慢性呼吸器疾患看護専門研修」を新たに立ち上げ、専門的なケアができる看護師を広く育成する。

[目標値] 紹介・逆紹介件数

病院名	平成26年度実績値		平成28年度目標値	
	紹介件数 (紹介率)	逆紹介件数 (逆紹介率)	紹介件数 (紹介率)	逆紹介件数 (逆紹介率)
足柄上病院	8,277件 (45.1%)	4,497件 (26.7%)	8,200件 (50.0%)	4,600件 (30.0%)
こども医療センター	7,470件 (98.5%)	5,622件 (72.3%)	7,800件 (98.5%)	5,700件 (73.0%)
精神医療センター	542件 (44.8%)	521件 (42.5%)	600件 (42.9%)	600件 (42.9%)
がんセンター	6,461件 (99.2%)	2,933件 (40.2%)	7,700件 (100.0%)	4,200件 (55.0%)
循環器呼吸器病センター	4,328件 (71.7%)	4,232件 (70.1%)	4,600件 (71.9%)	4,500件 (70.3%)
計	27,078件	17,805件	28,900件	19,600件

## 4 ICTを活用した医療連携

### (1) 全体計画

患者の利便性向上を目指し、神奈川県が行う医療施策に協力する。

### (2) 個別計画

#### ア 足柄上病院

電子カルテシステムを導入する。

#### イ こども医療センター

ICTを活用し、オンラインによる紹介状の收受や診療予約の受付などを実施するほか、地域医療機関との診療情報の共有化を図り、在宅医療への移行、成人への移行期医療の対応を積極的に推進していく。

#### ウ がんセンター

全国に先駆けて実施している地域がん登録に加え、全国がん登録を着実に実施し、がん医療の質の向上に貢献するとともに、県民に対して適切な医療情報の提供を行う。

## エ 循環器呼吸器病センター

電子カルテシステムを活用した紹介患者の拡大と患者情報の共有化などの地域医療機関との連携に関し、連携医療機関との意見交換を行い、診療情報の提供範囲などの具体的な実施に向けた検討を行う。

## 5 安全で安心な医療の提供

### (1) 災害対応力の充実強化

#### ア 全体計画

- ・災害発生時等に各病院が病院機能を維持できるよう医薬品・災害用医療資材等を備蓄するとともに、施設の点検及び更新並びに定期的な防災訓練等を実施する。
- ・神奈川県における災害対策基本法等に規定する指定地方公共機関として、災害時には、神奈川県医療救護計画に基づく県立病院救護班を編成し、被災地等へ派遣する。

#### イ 個別計画

##### (ア) 足柄上病院

- ・神奈川県DMAT<sup>2</sup>指定病院として、大規模災害が発生した場合には、速やかに足柄上病院DMATを被災地に派遣し、医療支援活動を行う。
- ・県西地域医療圏における災害医療拠点病院として、災害時を想定した患者の受入訓練等を実施する。

##### (イ) こども医療センター

神奈川県が行うDPAT<sup>3</sup>の体制整備に協力していく。

##### (ウ) 精神医療センター

神奈川県が行うDPATの体制整備に協力していく。

[ 目標値 ] 防災訓練

病院名	平成26年度 実績値		平成28年度 目標値	
	回数	参加者数	回数	参加者数 (対象者数)
足柄上病院	4回	228人	6回	350人 (480人)
こども医療センター	4回	330人	7回	500人 (840人)
精神医療センター	3回	156人 296人	2回	350人 (350人) (500人)
がんセンター	5回	467人	3回	650人 (650人)
循環器呼吸器病センター	2回	180人	2回	210人 (295人)
計	18回	1,361人 1,501人	20回	2,060人 (2,615人) (2,765人)

患者を含めた人数

## (2) 感染症医療体制の充実強化

- ・神奈川県立病院感染防止対策会議で、感染症対策に係る情報を共有するとともに、手指衛生の実践状況を調査し、その結果について比較及び分析を行い、改善を図る。
- ・各病院において感染防止会議を開催し、院内感染防止マニュアルの見直しや感染防止対策の教育の徹底に努める。また、発生時の初期対応やアウトブレイク時の対応等を速やかに行う。
- ・新型インフルエンザ等対策に関する業務計画に基づき訓練を実施し、見直し等を行う。
- ・他の医療機関との連携を強化するため、感染防止対策に対する相互評価等を実施する。
- ・医療関連感染の発生を防止するため、感染対策チーム等によるサーベイランス活動に取り組み、具体的な対応策を検討する。
- ・手術部位感染及び人工呼吸器関連肺炎等の発症リスクを減らす取組みを推進する。

### [ 目標値 ] 感染症防止院内研修

病院名	平成26年度実績値		平成28年度目標値	
	回数	参加者数	回数	参加者数 (対象者数)
足柄上病院	21回	793人	20回	760人 (480人)
こども医療センター	20回	2,968人	20回	3,000人 (840人)
精神医療センター	4回	761人	3回	800人 (350人)
がんセンター	21回	1,533人	12回	1,400人 (650人)
循環器呼吸器病センター	14回	1,019人	12回	1,140人 (295人)
計	80回	7,074人	67回	7,100人 (2,615人)

## (3) 医療安全対策の強化

- ・医療事故の際に、迅速な報告・対応を実施するよう、病院の医療安全部門と医療メディエーター<sup>4</sup>が協働して現状把握と評価を行い、医療安全対策会議において対策を検討する。
- ・インシデント事例の積極的で迅速な報告を推進し、再発防止及び重大事故の未然防止に努める。
- ・医療事故調査制度に対応したマニュアルを整備する。

[ 目標値 ] 医療安全に関する研修

病院名	平成26年度実績値		平成28年度目標値	
	回数	参加者数	回数	参加者数 (対象者数)
足柄上病院	28回	1,145人	16回	1,000人 (480人)
こども医療センター	3回	2,409人	3回 (11回)	2,400人 (840人)
精神医療センター	3回	730人	3回 (4回)	800人 (350人)
がんセンター	7回	1,153人	6回	1,600人 (650人)
循環器呼吸器病センター	14回	1,115人	24回	1,440人 (295人)
計	55回	6,552人	52回 (61回)	7,240人 (2,615人)

回数の( )内はフォローアップ研修を含めた実施回数

## 6 患者や家族から信頼される病院に向けた取組みの推進

### (1) 患者サービスの向上と情報提供の充実

- ・患者及び家族等の立場に立ったサービスを提供するため、新規採用職員等を対象に研修を実施し、職員の接客能力の向上を図る。
- ・各病院において待ち時間の実態調査を実施し、患者の負担を軽減する取組みを進める。
- ・各病院において公開講座やホームページ、広報誌による医療情報の提供など、県民に分かりやすい情報発信を幅広く行う。
- ・各部署が所管する業務内容の共有を図ることで、患者や家族からの相談や連絡に対し、迅速かつ適切な対応を行う。

### (2) 患者支援体制の充実

#### ア 全体計画

- ・患者及び家族の医療内容の適切な理解及び選択に向け、インフォームドコンセントを推進するとともに、相談窓口や実施している取組内容の掲示場所を工夫するなど、相談支援体制を充実する。
- ・診療内容の標準化や、良質な医療を円滑に提供するため、地域連携及び院内クリニカルパス<sup>5</sup>の作成及び見直しを行う。
- ・地域の医療機関及び福祉施設で継続した医療・介護を必要とする患者に対し、退院後の療養が円滑に行われるよう、患者支援部門が入院時から介入し、適切な支援・指導を行う。
- ・各病院に配置する院内医療メディエーターにより、患者及び家族からの相談に対応する体制を強化するとともに、医療メディエーター連絡協議会における事例検討や研修などにより、



相互の連携やスキルアップに努め、医療安全の充実強化を進める。

## イ 個別計画

### (ア) こども医療センター

- ・小児がん拠点病院として、小児がん相談支援室を中心に在宅の患者の支援を強化するため、地域の医療・福祉・教育機関からの相談に対応するほか、小児がん家族の会などの開催を通じ、抱えている問題の早期把握に努め、相談支援を充実する。
- ・認定遺伝カウンセラー等を配置した「新しい命のためのサポートセンター」において、遺伝に係る心配・不安のある患者・家族、妊娠・出産・育児等に不安のある人に適切な遺伝情報や社会の支援体制を含む様々な心理的、社会的サポートを通して、当事者の自律的な意思決定を支援する。

### (イ) がんセンター

- ・手術や抗がん剤等のがん治療に伴う外見上の変化に関する悩みや不安を持つ患者に対し、「アピアランスサポートセンター」を設置して専門的なケアを行い、患者のQOL<sup>6</sup>の向上を図る。
- ・「リハビリテーションセンター」を設置し、がん患者のQOL向上や早期社会復帰へのサポートを積極的に行う。
- ・都道府県がん診療連携拠点病院として、がん相談支援センターにおける相談や、漢方相談、社会保険労務士及びハローワークと連携した就労支援などの相談支援を推進する。

### (ウ) 循環器呼吸器病センター

間質性肺炎の患者、家族等を対象とした勉強会を開催し、病気や治療法等について知る機会を作るとともに、患者、家族等の交流や情報交換会等を行い、患者会の設立に向けた取組みを支援する。

[目標値] セカンドオピニオン件数

病院名	平成26年度実績値	平成28年度目標値
足柄上病院	0件	-
こども医療センター	52件	50件
精神医療センター	5件	10件
がんセンター	818件	870件
循環器呼吸器病センター	72件	70件
計	947件	1,000件

[目標値] クリニカルパス件数

病院名	平成26年度実績値		平成28年度目標値	
	地域連携	院内 (適用率)	地域連携	院内 (適用率)
足柄上病院	1件	76件 ( - )	3件	65件 ( - )
こども医療センター	0件	87件 ( 34.2% )	1件	91件 ( 35.0% )
精神医療センター	0件	9件 ( 11.8% )	1件	5件 ( 14.0% )
がんセンター	6件	61件 ( 27.0% )	9件	75件 ( 30.0% )
循環器呼吸器病センター	0件	22件 ( 50.5% )	1件	22件 ( 54.0% )
計	7件	255件	15件	258件

## 7 職員にとって魅力ある病院に向けた取組みの推進

- ・感染対策チーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム及び褥瘡対策チームなど多職種が連携、協働したチームによる患者支援や、業務改善の取組みを推進する。
- ・職員の業務の運営に関する顕著な功績や推奨すべき業績に対し、発表会による審査を経た職員表彰を実施するとともに、職場単位での業務改善活動を推進する。
- ・平成27年4月に本部に設置した監査・コンプライアンス室及び各所属に設置した相談窓口を中心として、コンプライアンスの徹底に努め、働きやすい職場づくりを推進する。
- ・ワーク・ライフ・バランスを推進するために導入した、短時間正規職員制度の適切な運用に努め、制度の拡充を図る。また、夜間専従職員制度、時差出勤制度などの多様な勤務形態の導入について検討を行う。
- ・職員が働きやすい職場づくりに向けた取組みについて、ホームページ、メール等により職員に周知する。

[目標値]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
新卒看護師の離職率	11.0%	5.0%

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
職員1人当たりの年次休暇取得日数	8.1日	15日

常勤職員を対象とする。

## 8 各病院の具体的な取組み

### (1) 足柄上病院

- ・消防本部と連携を強化するなど、救急患者を積極的に受け入れ、断らない救急に努める。

[目標値]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
救急受入率	95.8%	95.0%

- ・助産師主導の分べん体制の維持に努める。

[目標値]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
分べん件数	194件	120件

- ・高齢化が進む中で地域の唯一の中核病院として、地域包括ケアを支えるため、患者の病状が急変した際に24時間対応できるよう患者の受入れ体制を整えるなど、在宅療養患者を支援する。

[目標値]

区分	平成28年度目標値
在宅療養後方支援病院としての登録累計患者数	97人 (新規登録40人)

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
退院患者(75歳以上)の在宅復帰率	86.5%	86.0%

- ・第二種感染症指定医療機関及びエイズ治療拠点病院として、新型インフルエンザやエイズ等の感染症患者の受入れを行う。
- ・地域に潜在しているがん患者を早期に発見し治療するため、要精密検査を受け入れるとともに、内視鏡検査及び治療を進める。

[目標値]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
内視鏡検査件数	4,181件	4,200件
内視鏡治療件数	897件	920件

- ・高齢者等の患者にやさしく負担がより少ない低侵襲な鏡視下手術（胸腔鏡、腹腔鏡）に取り組む。

[目標値]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
鏡視下手術件数	284件	250件

・高齢化による心疾患患者の増加に対応するため、高齢者等の患者にカテーテル検査及び治療を進める。

[目標値]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
心臓カテーテル検査件数	230件	300件
心臓カテーテル治療件数	117件	130件

・高齢者へのがんの治療や緩和ケア、術後の再発防止として、体への負担が少なく、QOL低下の少ない放射線治療に取り組む。

[目標値]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
放射線治療計画策定件数	45件	50件
放射線治療延べ患者数	876人	1,100人

## (2) こども医療センター

・小児集中治療室（PICU<sup>7</sup>）の整備に向けた具体的な検討を行う。  
 ・神奈川県周産期救急医療システムを効果的に運用するために、周産期救急の基幹病院として、他の医療機関では治療が困難な患者を中心に受入れを行うとともに、小児三次救急と合わせ、地域医療機関との連携・調整の役割を引き続き担う。

[目標値]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
NICU <sup>8</sup> 新規入院患者数	394人	400人

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
救急受入件数	4,869件	5,080件

・県内唯一の小児がん拠点病院として、再発がんや難治がん患者に対し、先進的かつ集学的治療を行うとともに、早期から緩和ケアに取り組む。さらに、化学療法や退院後訪問看護及び栄養支援など、質の高い医療を提供するとともに、小児がん経験者向けの内分泌外来など長期フォローアップ体制の構築を通じ、晩期合併症への対応を進める。

[目標値]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
小児がん患者新規入院患者数	71人	70人

・小児がん家族の会などの開催を通じ、抱えている問題の早期把握に努め、相談支援を充実するほか、セミナーの開催、連携医療機関の医師を交えた腫瘍症例検討会を開催するなど、小児がん

治療に関する知識・技術の向上を図る。

- ・小児の高度・専門医療を提供する三次医療機関として、心疾患や先天性異常等に対する手術など、難易度の高い治療に対応する。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
手術件数	3,647件	3,800件

・成人後の患者は他の医療機関に紹介するのが原則であるが、他の医療機関では対応が困難な、先天性心疾患などの重度の外科系疾患患者や、内分泌代謝面の治療が必要な小児がん経験者の受け皿としての役割を担う。

- ・手術前後、慢性疼痛、がん性疼痛などについて効果的な緩和ケアに取り組むほか、小児患者とその家族の生活の質の向上を図るため、「緩和ケア外来」を推進する。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
緩和ケア外来患者数	39人	40人

・処置及び検査に対する不安及び手術後も含めた疼痛の緩和を行うアキュートペインサービス<sup>9</sup>を推進する。

・入院中の医療ケアが在宅医療に移行後も継続されるように、訪問看護ステーションの看護師に対し、退院が近い患者へのケアの手法を指導するなど、病院から地域への必要な情報共有のシステムの整備を行い、訪問看護ステーションの看護師の退院初期訪問時に同行する「退院後訪問看護」を緩和ケアの患者に対しても実施する。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
退院後訪問看護件数	14件	25件

・栄養支援の強化を図るため、胃ろうからのミキサー食注入の推進、バイキング形式による食事会など患者が楽しく食事するための工夫のほか、食欲低下や粘膜障害を起こしやすい小児がん患者とその家族を対象にグループ栄養相談を開催するなど相談体制の充実を図る。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
栄養相談実施件数	414件	420件

### (3) 精神医療センター

- ・神奈川県精神科救急医療システムの基幹病院として、神奈川県精神保健福祉センターや4県

市主管課等と密接に連携し、措置入院患者等を積極的に受け入れる。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
救急病棟入院延患者数	20,504人	23,000人

・児童相談所等と連携を強化し、中学生・高校生年代の患者を積極的に受け入れる。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
思春期病棟病床利用率	40%	85%

・難治性うつ病等に対する治療法（反復性経頭蓋磁気刺激法）の開発やうつ病等の精神疾患患者を対象としたストレスケア医療に取り組む。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
ストレスケア病棟病床利用率	64.2%	90.0%

・依存症治療拠点機関として専門的な相談などを行うとともに、アルコール・薬物依存症の患者に対して集団治療プログラムを実施する。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
集団治療プログラム延患者数	913人	1,770人

・医療観察法<sup>10</sup>医療の指定医療機関として、国と連携して患者を受け入れ、多職種チームによる専門治療プログラムに沿った医療を提供する。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
医療観察法病棟病床利用率	91.7%	95.0%

・特定の医療機関でしか実施できないクロザピン<sup>11</sup>の専門病床（クロザピンユニット）を設置するなど難治患者に対して、高度な医療を実施する。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
クロザピンによる治療患者数	16人	30人

・未病健診研究に係る調査等事業をきっかけとして、認知症患者の受け入れについて準備を進め

る。

#### (4) がんセンター

・診療及び手術室のスタッフの確保や育成など診療体制の充実に努め、手術室、外来化学療法室及び放射線治療設備の稼働率の向上を図る。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
手術件数	3,089件	3,440件

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
外来化学療法件数	14,212件	16,500件

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
放射線治療新規患者数	992人	1,100人
うち定位照射	15人	20人
うちIMRT	99人	120人
放射線治療延べ患者数	25,466人	27,320人
うち定位照射	60人	80人
うちIMRT	3,484人	4,200人

・「リハビリテーションセンター」を設置し、個々のがん患者に適したより効果的なりハビリテーションを提供する。

[ 目標値 ]

区分	平成28年度目標値
リハビリテーション件数	1,300件

・平成27年12月に開始した重粒子線治療について、本格的な運用を行うとともに、医療機関を通じた集患の取組みを積極的に実施し、治療患者の拡大を図る。

[ 目標値 ]

区分	平成28年度目標値
重粒子線治療件数	200件

・緩和ケア内科、緩和ケアチーム及び緩和ケア病棟が連携し、診断期から緩和ケアを提供することにより、がん患者の療養生活の質の向上を図る。

[ 目標値 ]

区分	平成28年度目標値
緩和ケア指導件数	1,100件

・「漢方サポートセンター」において、がん治療に伴う難治性の末梢神経障害、更年期症候群、浮腫、疼痛等に対し、鍼治療を含めた有効な東洋医学的治療を提供する。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
漢方サポートセンター外来患者数	2,108人	3,600人

### (5) 循環器呼吸器病センター

・循環器及び呼吸器の専門病院としての特殊性から、併存疾患を持つ高齢者や難易度の高い手術が多い中で、安全で質の高い手術を提供するとともに、これらの実績を地域の医療機関に積極的に周知し、手術が必要な患者の受け入れ拡大を図る。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
手術件数	956件	1,045件
カテーテルアブレーション件数	51件	80件

・平成27年度に設置した「間質性肺炎センター」において、質の高い医療を提供できるよう、専門医の育成や治療技術の向上等の機能強化に取り組むとともに、患者への相談支援や情報提供を行い、全国の治療拠点としての役割を果たす。

・COPD（慢性閉塞性肺疾患）や間質性肺炎患者を対象に、チーム医療による包括的呼吸リハビリテーションを目的とした教育入院を推進する。

・肺がんについて、患者の状況に応じた適格な診断、低侵襲な胸腔鏡手術や化学療法、放射線治療、リハビリテーション及び相談サポートなど包括的な診療を行うとともに、先端的な治験、臨床研究の取組みや蓄積した患者データの分析等を進め、最新で質の高い医療を提供する。

[ 目標値 ]

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
間質性肺炎新規外来患者数	272人	280人

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
COPD新規外来患者数	351人	380人



区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
放射線照射計画策定件数	144件	150件
放射線治療延べ患者数	1,893人	2,100人

区分	平成26年度実績値	平成28年度目標値
心臓リハビリテーション件数	2,724件	3,400件
呼吸リハビリテーション件数	5,287件	8,200件

・平成27年度に設置した「糖尿病・内分泌内科」により、周術期の血糖管理、ステロイド糖尿病等の血糖コントロール困難例の安全な治療遂行を図るとともに、多職種からなるサポートチームによる外来での療養指導を行うなど、専門性の高い治療を提供する。

・結核患者について、高齢化による併存疾患を持つ患者や認知症の患者の増加に対応するため、患者の状況に合わせたきめの細かい医療サービスを提供する。

## 第2 経営基盤の強化に関する目標を達成するためとるべき措置

### 1 業務運営体制の確立

#### (1) 収益の確保

- ・地域の医療機関や福祉施設との連携強化によって、効率的な病床運用を行い、収益の向上に努める。
- ・診療報酬改定を踏まえ、各病院の特性に応じて、新たな施設基準を取得するよう努める。
- ・個人未収金について、発生防止の対策を行うとともに、債権回収方法の見直しを行う。
- ・コンサルタントからの提言を踏まえ、管理者や診療科部長による医療機関訪問など、新規患者の増加に向けた取組みを推進する。

#### (2) 費用の削減

- ・本部事務局における共同購入対象品目の拡大や、後発医薬品の採用推進等の取組みにより、費用削減を進める。
- ・本部事務局に物品調達機能を一部集約し、効率的な執行に努める。
- ・医療機器の整備・更新に当たり、稼動に係る採算性や導入効果の検証を行う。

[目標値]

区分	平成26年度実績	平成28年度目標値
後発医薬品採用率（数量ベース）	39.3%	60.0%
後発医薬品採用率（金額ベース）	26.2%	35.0%

#### (3) 経営意識を有した職員の育成

- ・機構の経営状況について、「機構通信」等の職員向けの広報誌で周知することにより、職員全員が経営情報を把握し、共有できるようにする。
- ・経営状況の把握や経営分析についての研修を、事務職に限らず他職種の職員に対しても行い、機構全体で経営に参画する意識を高める。
- ・医師及び幹部職員を対象に、病院経営や組織マネジメント等に関する研修を実施する。

## 2 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

### (1) 予算（平成28年度）

（単位：百万円）

区分	金額（税込）
収入	
営業収益	55,491
医業収益	45,004
運営費負担金収益	9,938
その他営業収益	549
営業外収益	1,014
運営費負担金収益	493
その他営業外収益	521
臨時利益	2
資本収入	2,768
長期借入金	2,111
運営費負担金収入	634
その他資本収入	23
その他の収入	0
計	59,276
支出	
営業費用	56,965
医業費用	55,522
給与費	25,129
材料費	12,491
経費	10,605
減価償却費	4,720
研究研修費	1,185
うち給与費	500
児童福祉施設費	1,391
うち給与費	1,030
一般管理費	470
うち給与費	424
その他営業費用	973
営業外費用	910
臨時損失	157
資本支出	5,874
建設改良費	2,464
地方債償還金	3,388
その他	21
その他の支出	0
計	63,905

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

(2) 収支計画 (平成28年度)

ア 県立病院機構全体

(単位：百万円)

区分	金額 (税抜)
収入の部	56,357
営業収益	55,374
医業収益	44,887
運営費負担金収益	9,938
その他営業収益	549
営業外収益	983
運営費負担金収益	493
その他営業外収益	489
臨時利益	0
支出の部	57,880
営業費用	56,815
医業費用	54,632
給与費	25,105
材料費	12,441
経費	9,871
減価償却費	4,720
研究研修費	1,125
うち給与費	500
児童福祉施設費	1,372
うち給与費	1,030
一般管理費	470
うち給与費	424
その他営業費用	1,712
営業外費用	909
臨時損失	157
純利益	1,524
目的積立金取崩額	0
総利益	1,524

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 97.6%

医業収益に対する給与費の比率 60.3%

医業収支比率 121.7%

医業収支比率 (研究研修費を除く) 119.2%

## イ 足柄上病院

(単位：百万円)

区分	金額(税抜)
収入の部	6,683
営業収益	6,553
医業収益	5,775
運営費負担金収益	736
その他営業収益	41
営業外収益	130
運営費負担金収益	77
その他営業外収益	54
臨時利益	0
支出の部	6,987
営業費用	6,842
医業費用	6,638
給与費	3,797
材料費	1,281
経費	1,107
減価償却費	434
研究研修費	20
うち給与費	0
児童福祉施設費	0
うち給与費	0
一般管理費	0
うち給与費	0
その他営業費用	204
営業外費用	124
臨時損失	21
純利益	304
目的積立金取崩額	0
総利益	304

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 95.9%

医業収益に対する給与費の比率 65.7%

医業収支比率 114.9%

医業収支比率(研究研修費を除く) 114.6%

## ウ こども医療センター

(単位：百万円)

区分	金額(税抜)
収入の部	16,299
営業収益	16,129
医業収益	12,556
運営費負担金収益	3,250
その他営業収益	323
営業外収益	171
運営費負担金収益	115
その他営業外収益	56
臨時利益	0
支出の部	16,012
営業費用	15,736
医業費用	15,270
給与費	7,504
材料費	3,073
経費	2,024
減価償却費	1,114
研究研修費	184
うち給与費	99
児童福祉施設費	1,372
うち給与費	1,030
一般管理費	0
うち給与費	0
その他営業費用	466
営業外費用	194
臨時損失	82
純利益	288
目的積立金取崩額	0
総利益	288

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 102.3%

医業収益に対する給与費の比率 68.8%

医業収支比率 121.6%

医業収支比率(研究研修費を除く) 120.2%

## エ 精神医療センター

(単位：百万円)

区分	金額(税抜)
収入の部	5,283
営業収益	5,231
医業収益	3,212
運営費負担金収益	1,915
その他営業収益	104
営業外収益	52
運営費負担金収益	40
その他営業外収益	12
臨時利益	0
支出の部	5,197
営業費用	5,115
医業費用	5,047
給与費	3,618
材料費	278
経費	700
減価償却費	443
研究研修費	8
うち給与費	0
児童福祉施設費	0
うち給与費	0
一般管理費	0
うち給与費	0
その他営業費用	68
営業外費用	80
臨時損失	2
純利益	86
目的積立金取崩額	0
総利益	86

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 101.7%

医業収益に対する給与費の比率 112.6%

医業収支比率 157.1%

医業収支比率(研究研修費を除く) 156.9%

## オ がんセンター（病院）

（単位：百万円）

区分	金額（税抜）
収入の部	19,332
営業収益	19,069
医業収益	16,737
運営費負担金収益	2,282
その他営業収益	50
営業外収益	263
運営費負担金収益	143
その他営業外収益	120
臨時利益	0
支出の部	19,510
営業費用	19,195
医業費用	18,529
給与費	6,819
材料費	6,178
経費	3,314
減価償却費	1,631
研究研修費	587
うち給与費	318
児童福祉施設費	0
うち給与費	0
一般管理費	0
うち給与費	0
その他営業費用	666
営業外費用	295
臨時損失	20
純利益	178
目的積立金取崩額	0
総利益	178

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 99.2%

医業収益に対する給与費の比率 42.6%

医業収支比率 110.7%

医業収支比率（研究研修費を除く） 107.2%



## カ がんセンター（重粒子線治療施設）

（単位：百万円）

区分	金額（税抜）
収入の部	1,111
営業収益	1,049
医業収益	701
運営費負担金収益	330
その他営業収益	18
営業外収益	61
運営費負担金収益	61
その他営業外収益	0
臨時利益	0
支出の部	1,697
営業費用	1,574
医業費用	1,520
給与費	211
材料費	12
経費	711
減価償却費	586
研究研修費	0
うち給与費	0
児童福祉施設費	0
うち給与費	0
一般管理費	0
うち給与費	0
その他営業費用	54
営業外費用	123
臨時損失	0
純利益	587
目的積立金取崩額	0
総利益	587

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 65.4%

医業収益に対する給与費の比率 30.1%

医業収支比率 216.8%

医業収支比率（研究研修費を除く） 216.8%

## キ 循環器呼吸器病センター

(単位：百万円)

区分	金額(税抜)
収入の部	7,242
営業収益	7,157
医業収益	5,819
運営費負担金収益	1,324
その他営業収益	13
営業外収益	85
運営費負担金収益	58
その他営業外収益	27
臨時利益	0
支出の部	7,280
営業費用	7,156
医業費用	6,925
給与費	3,097
材料費	1,619
経費	1,567
減価償却費	511
研究研修費	131
うち給与費	47
児童福祉施設費	0
うち給与費	0
一般管理費	0
うち給与費	0
その他営業費用	232
営業外費用	93
臨時損失	31
純利益	38
目的積立金取崩額	0
総利益	38

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 99.9%

医業収益に対する給与費の比率 54.0%

医業収支比率 119.0%

医業収支比率(研究研修費を除く) 116.7%

## ク 本部事務局

(単位：百万円)

区分	金額(税抜)
収入の部	320
営業収益	100
医業収益	0
運営費負担金収益	100
その他営業収益	0
営業外収益	220
運営費負担金収益	0
その他営業外収益	220
臨時利益	0
支出の部	1,112
営業費用	1,110
医業費用	617
給与費	59
材料費	0
経費	448
減価償却費	0
研究研修費	110
うち給与費	0
児童福祉施設費	0
うち給与費	0
一般管理費	470
うち給与費	424
その他営業費用	23
営業外費用	0
臨時損失	2
純利益	792
目的積立金取崩額	0
総利益	792

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

## ケ みらい臨床研究支援センター

(単位：百万円)

区分	金額(税抜)
収入の部	87
営業収益	87
医業収益	87
運営費負担金収益	0
その他営業収益	0
営業外収益	0
運営費負担金収益	0
その他営業外収益	0
臨時利益	0
支出の部	87
営業費用	87
医業費用	87
給与費	0
材料費	0
経費	0
減価償却費	0
研究研修費	87
うち給与費	35
児童福祉施設費	0
うち給与費	0
一般管理費	0
うち給与費	0
その他営業費用	0
営業外費用	0
臨時損失	0
純利益	0
目的積立金取崩額	0
総利益	0

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

### (3) 資金計画 (平成28年度)

(単位：百万円)

区分	金額 (税込)
資金収入	64,535
業務活動による収入	56,076
診療活動による収入	45,004
運営費負担金による収入	10,431
その他の業務活動による収入	641
投資活動による収入	657
運営費負担金による収入	634
その他の投資活動による収入	23
財務活動による収入	2,111
長期借入れによる収入	2,111
その他の財務活動による収入	0
前事業年度よりの繰越金	5,691
資金支出	64,535
業務活動による支出	53,121
給与費支出	26,684
研究研修費支出	1,185
その他の業務活動による支出	25,252
投資活動による支出	2,486
有形固定資産の取得による支出	2,464
その他の投資活動による支出	21
財務活動による支出	3,358
移行前地方債償還債務の償還による支出	1,246
長期借入金の返済による支出	2,112
その他の財務活動による支出	0
翌事業年度への繰越金	5,571

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

### **第3 短期借入金の限度額**

#### **1 限度額**

3,000百万円

#### **2 想定される短期借入金の発生理由**

賞与の支給等、資金繰り資金への対応

### **第4 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画**

なし

### **第5 剰余金の使途**

決算において剰余が発生した場合は、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる。

### **第6 その他神奈川県規則で定める業務運営に関する重要事項**

#### **1 人事に関する事項**

医療ニーズの変化に迅速に対応するため、正規職員の採用や医師等医療スタッフの配置を弾力的に行うとともに、人事評価システムの効果的運用により、職員の実績等を的確に反映した人事管理を行う。

#### **2 その他法人の業務運営に関し必要な事項**

- ・「第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」の「1 質の高い医療の提供」の「(2) 臨床研究の推進」に記載のとおり、臨床研究支援や未病の取組みを初めとした神奈川県が行う施策に協力していく。
- ・循環器呼吸器病センターのあり方について、検討会を設置し、提言に基づいた具体的な検討を進める。

## 備考

- 1 **高度医療セクレタリー** 一般的な医師事務作業補助者よりも高度なスキルを持ち、医師の専門的補助職として、現在医師が行っている事務作業を広く担える人材。
- 2 **DMA T** (災害派遣医療チーム: Disaster Medical Assistance Team) 災害の急性期(災害発生から48時間以内)に活動できる機動性を持ち救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チーム。
- 3 **DPAT** (災害派遣精神医療チーム: Disaster Psychiatric Assistance Team) 大規模災害等の発生後に被災者及び支援者に対して精神科医療の提供及び精神保健活動の支援を行うための専門的な研修を受けた医療チーム。
- 4 **医療メディエーター** 医療現場で発生した苦情や事故後の初期対応の際に、患者側と医療者側の対話を促進し、関係再構築を支援するため、専門的な研修を受けた者。
- 5 **クリニカルパス** 入退院に必要な検査、治療、ケア等の標準的な経過に基づき予定を示す診療スケジュール表。
- 6 **QOL** (生活の質: Quality Of Life) 個々の生活の物質的な豊かさやサービスの量だけでなく、精神面を含めた満足感や幸福感など、人間らしく生活できているかを評価する概念。
- 7 **PICU** (小児集中治療室: Pediatric Intensive Care Unit) 生命が危険な状態にあり集中治療を必要とする小児重症患者に対応できる設備を備え、職員を配置して24時間体制で診療を行う医療施設。
- 8 **NICU** (新生児集中治療室: Neonatal Intensive Care Unit) 低出生体重児やその他の疾患を有し集中治療を必要とする新生児患者に対応できる設備を備え、職員を配置して24時間体制で診療を行う医療施設。
- 9 **アキュートペインサービス** 処置や検査によって生じる痛みや不安などの精神的負担を緩和する医療ケア。
- 10 **医療観察法** 正式名称は「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」。精神障害のために善悪の区別がつかないなど、刑事責任を問えない状態で重大な他害行為を行った者に対し、適切な医療を提供し社会復帰を促進することを目的としている。
- 11 **クロザピン** 「治療抵抗性統合失調症」に適応した統合失調症治療薬。投与に当たっては、クロザリル患者モニタリングサービスへの登録を行い、副作用の早期発見や悪化防止のために定期的な検査を受けることが義務付けられ、導入時には原則18週間の入院治療が必要となっている。